

2004年2月1日

「大学などの高等教育機関での勉強に耐えられる基礎力を身に付ける」とは(1)

開倫塾

塾長 林 明夫

Q 開倫塾では最近、「大学などの高等教育機関での勉強に耐えられる基礎力を身に付ける」ことを強調しているようですが、なぜですか。

A (林明夫。以下省略)

①普通科高校ではほぼ 100%、実業高校でも 50%以上の方が、高校卒業後に大学や短大、専門高校など所謂(いわゆる)高等教育機関に進学するようになりました。

ご参考

*小学校での教育を「初等教育」、中学校と高校での教育を「中等教育」(中学校での教育を「前期中等教育」、高校での教育を「後期中等教育」と分けて言う場合もあります)、大学等での教育を「高等教育」と呼びます。そこで、大学などを「高等教育機関」と呼びます。

②高校卒業後に、大学など上の学校で勉強する人が増えることは素晴らしいことです。しかし、問題があります。それは、せっかく大学などに進学しても大学での本来の勉強、つまり講義や演習、研究に耐えられるだけの学力が備わっていない人が数多く見られるということです。「大学生の学力不足問題」として社会問題にまでなっています。多くの大学の先生方の悩みの種となっています。大学に行っても学力不足で勉強が進まないことは、本人にとっても多額の学費や生活費を負担する保護者の皆様にとっても辛いことではないかと思います。そこで、心ある大学などでは大学生として不足する分野の補習を予備校の先生などに依頼して、大学入学後に行っているところもあります。

③この「大学生の学力不足」の問題の原因は、十分に勉強しないで大学に進学してしまったことにあります。入学試験があるからそれで十分かといえば、受験科目しか勉強しない人も多いですし、受験科目であっても点数さえ取ればよいという勉強しからない人も多いようです。大学入試でも推薦入学が大流行で、十分に勉強しなくても合格できてしまう大学も激増。推薦入試を中止すべきだという意見も出るほどです。

*朝日新聞論説をご参考までにお読みください。

④他方、文部科学省はどのような内容を学校で教えるべきかの目安を示す「学習指導要領」を、学校ではここまで教えれば十分という「到達目標」から、これでは不十分と後になって考えたためか、考えを 180 度変えて、最低でもここまでは学校で教えるようにという「最低基準」であるとなりました。「学習指導要領」が「到達目標」から「最低基準」になったことで、学校は大混乱しているようです。とても、大学などの高等教育機関での勉強に耐えられるだけの基礎学力を身に付けることを目指す状況ではない学校が多いと思われます。

⑤さて、もう一つの現実として、開倫塾で学ばれた方の大半は高校卒業後に大学などに進学なさることがあります。開倫塾では、学校の「補習」と志望校合格のための「受験」指導を今までと同

様にさせていただきますが、これに加えて、高校生は当然のこととして、中学生や小学生についても無理のない範囲で大学などの高等教育機関での勉強に耐えられる基礎学力を身に付けて頂けるよう、学年相応の指導を少しずつ行うことに致しました。

各学年で削減された内容も、無理のない範囲で能力に応じてどんどん指導致します。上の学年の内容も能力や希望に応じて積極的に指導致します。

とりわけ日本人が最も不得意とする英語については、実用英語技能検定(英検)合格のための勉強を通じて、積極的に上級学年の指導を致します。1年に1つの級ずつ征服。高校卒業までには英検2級合格を目指して頂きたく希望します。「数検」や「漢検」についても、小中学生のうちから学年相応の実力を確実に身に付けた上で1つ1つ「級」を取得して頂き、大学など高等教育機関での勉強に耐えられるだけの基礎力を確実に身に付けて頂きたく希望します。

⑥自分なりの「勉強の方法」を身に付けること、「自己学習能力の育成」を開倫塾では教育理念の中心においております。毎回の「授業」、1学期1回の「個別面談」、定期的で開催される「教育情報講演会」、毎月1回発行の「開倫塾ニュース」のみならず、私が毎週土曜日(午前9時35分～45分)担当しているCRT 栃木放送「開倫塾の時間」でも効果の上がる勉強方法をご説明し続けております。「開倫塾のホームページ」(www.kairin.co.jp)には、「開倫塾ニュース」の内容を掲載。林明夫のコーナーでも「勉強の方法」「自己学習能力の育成方法」についての具体的内容を詳細に紹介させて頂いております。是非、塾生の皆様のみならず保護者の皆様にもホームページを御高覧頂きたくお願い申し上げます。

⑦何のために勉強をするのか、目標が明確になっていないから勉強できないとお悩みの方も多いようです。「学(がく)は光なり。無学(むがく)は闇なり」というゲーテの言葉があります。私は、できるだけ広く世の中を知る努力をした上で、自分の頭で学ぶ意味や学ぶ目標を考えてもらいたいと思います。そのために、今行っている学校の勉強の他に、「新聞を読んで考えよう」の運動を昨年から本格的に開倫塾では展開しています。動機付けのために、各新聞社、通信社で実際に「記事」をお書きになっておられる方に開倫塾に来て頂き、新聞のできるまでをお話頂いております。小学生は20分、中学生は40分、高校生は1時間を目安に、好きなところからでよいですから新聞をじっくりと読み込み、広く世の中を知った上でものごとを自分の頭で考える習慣を身に付けてから大学などの高等教育機関で学んで頂きたいと開倫塾では希望しているからです。

⑧できれば、実用英語技能検定(英検)の2級を早めに取得し、日本語の新聞を第一面から1時間じっくりと読んだ後、よく内容かが分かっているところだけでよいから「英字新聞」(Daily yomiuriやHerald Asahiのように家庭に毎日配達されるもの)を1日1時間辞書なしでじっくりと読む習慣を身に付けてから大学などの高等教育機関に進んでももらいたいと希望します。

日本以外の高校卒業生で大学などの高等教育機関に進学する方の多くは英字新聞をスラスラ読めるからです。また、読んで内容が分からないことは、聴いても分からないし、自分で話すことも書くこともできません。「こんにちは」、「さようなら」などの挨拶レベルの英語、「コーヒー」、「ジュース」などの単語レベルの英語から一日も早く脱却しましょう。国際人として活躍する第一歩として、自分自身の考えを持ち、他人の考えも理解し、英語でコミュニケーションする能力を少しずつ身に付けて頂きたいと思います。そのトレーニングの第一歩として、英検2級合格後はよく分かっている内容だけでよいから英字新聞を1日1時間辞書なしで読むことを心からお勧めします。

⑨「美しい立居振舞い(たちいふるまい)」と「敬語表現を含む言葉遣い」を身に付けることも、大

学などの高等教育機関で学ぶ人には欠かせません。このことを合わせて「躰」(しつけ)といいます。

中国の西安の大学に留学した日本人留学生と日本の先生が行ったパフォーマンスは、誇り高い中国の大学生の心をいたく傷つけ、排日デモにまで発展してしまいました。日本の大学生が外国に行ってまで輪になり坐りこんでものを食べる、人の前での化粧、極端に短いスカート、だらしない服装をすることは、現地の人々の軽蔑の対象になっています。外国の人々は目の前に現れた日本の国のありようを思います。日本人を見て、日本のイメージをつくります。ですから、日本から一歩外に出たら、たとえ学生であろうと日本を代表する一流の外交官であると考え、服装、行動を律することが求められます。大学生になったからといって1日で「美しい立居振舞い」や「敬語表現を含む言葉遣い」を身に付けることはできませんので、小・中・高生の間にゆっくりと時間をかけて自ら学ぶ姿勢が大切です。開倫塾では「開倫塾 15 の躰(しつけ)」をプログラム化、少しずつお示し致します。3月は私が提案して入れて頂いた「靴を手でそろえよう」です。是非、塾生の皆様も御自分でどのようにすれば「美しい立居振舞い」と「敬語表現を含む言葉遣い」が身に付くかをお考えください。私はお手本にすべき人の一人はニューヨーク Yankees の松井秀喜選手だと確信します。皆様も身近にそのようなお手本になる人を探し、その方の「よい点だけ」を大いに学んでください。

＊ところで、人や組織からものごとを学ばせて頂くときには、そのよいところだけを学ばせて頂くことをお勧めします。どんな素晴らしい人にも、どんな素晴らしい組織にも必ず弱点(欠点)はあります。ともすると、せっかく学ばせて頂いても「良い点」を忘れて「欠点」ばかり目に付くようになりがちです。それでは、あまりにももったいないと私は思います。せっかく学ばせて頂くのでしたら、良い点だけを学強させてもらい、自分なりに「翻訳」して無理のない範囲、やり方でお取り入れになることをお勧めします。

⑩大分長くなりましたので、今回はこのくらいでおしまいにします。たとえ小学生・中学生であっても、高校生であればなおのこと、開倫塾に在籍中に少しでも大学などの高等教育機関での勉強に耐えられる基礎力を身に付けて頂くことを希望します。では頑張ってください。